



2004年・台風18号被害直後の状況



秋の植樹・開会セレモニーに参加の森の育て親



地元小学生たちによる植樹



夏の下刈りを行う森の育て親



植樹から保育まで3年間にわたる

森の育て親

活動記録誌

2006
▼
2008



目次

はじめに ● 主催者ごあいさつ	1
平成16年台風18号による支笏湖周辺の森林被害と復興の森づくりへの経緯	2
「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」プロジェクトの概要	3
市民・企業・行政の協働による復興の森づくり	4
支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり 実施フィールド	6
3年間にわたる「森の育て親」森づくりの軌跡	10
メッセージ ● 3年間の森づくり活動をふり返って	12
子どもたちからのメッセージ ● 森づくりに思うこと	13

はじめに ● 主催者ごあいさつ

支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会 委員長 中易 紘一

セブン-イレブンみどりの基金を活用した「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくりプロジェクト」が平成18年にスタートしました。



市民団体、地域住民などボランティア団体自らの手で、100ヘクタールの復興植林と必要な保育・手入れをしようという、大変大きな規模のもので全国でも初めての試みであり、多くの関心呼び、注目を浴びたところであります。

そして、ここに、皆様のご努力、ご支援により、見事に初期の目的を達成することが出来ました。皆様の力で成し遂げたこの成果は、広く国民参加による森林づくりの成功例として関係方面から高く評価され、また、地球温暖化防止活動の面からも環境大臣表彰を受けるほどの評価を得ました。個々に関係者の皆様、参加者の皆様に心から敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

ここで「実行委員会」という体制のプロジェクトは終えますが、山の方は、植林された木々が立派な森林となるまでには、なおその手入れと時間が必要であります。新たに設立されたNPO法人の活動に大いに期待いたします。

皆様からいただきましたご支援に改めて感謝申し上げ、ご挨拶とします。

セブン-イレブンみどりの基金 理事長 山本 憲司

セブン-イレブンみどりの基金は、平成16年の台風18号により、大きな風倒木被害を受けた支笏湖周辺の森を再生し、豊かな森林を蘇らせることを通じて、北海道のお客様から寄せられた募金を北海道の自然保護・再生に還元していきたいと考えました。

行政・環境市民団体・企業・地域団体などから成る「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会」を設立し、市民が「森の育て親」になって100haの大地に10万本の植樹を行う「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」プロジェクトです。



当基金はこの事業にかかる事業費6000万円を支援するとともに、多くの参加者を募り、募金を復興の森づくりに還元するため、北海道のセブン-イレブン店(828店舗)の協力を得て、店頭募金箱を「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」として、募金活動やポスター、レジ画面、レシートで参加者募集の告知を行いました。また同時に、北海道内のイトーヨーカドー15店舗、ロビンソン百貨店札幌店においても、ポスターの掲示とチラシによる参加者募集を行いました。全道から寄せられた募金は総額155万6449円になりました。

お客様からお預かりした募金を市民社会に還元するのがセブン-イレブンみどりの基金の社会貢献と考えております。これからも森の育て親をはじめ、市民の皆様には復興の森づくりへのご協力をお願いいたします。

今後も、新しく設立されました「NPO法人支笏湖復興の森づくりの会」を通して、当基金は支笏湖周辺の森づくりを応援していきます。

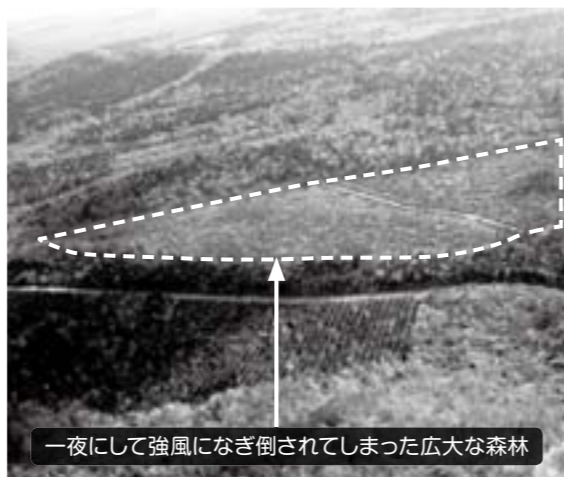
平成16年台風18号による支笏湖周辺の森林被害と復興の森づくりへの経緯

広大な緑の森が一夜にして消えた

2004(平成16)年9月8日、未明から北海道に接近し、各地で猛威をふるった台風18号。支笏湖周辺では森林約7000haが根こそぎなぎ倒された。一帯は1954年9月の洞爺丸台風でも甚大な森林被害を受けている。半世紀を経てようやく立ち直った木々が、またもや記録的な強風に襲われたのだ。

「木が折り重なるように倒れ、散らばった倒木を片付けるだけで2年がかりだった」と、当時の石狩森林管理署長・坪田清美氏は語った。

支笏湖を彩る美しい森は、多様な生物の宝庫であると同時に、地域の大切な水源林ともなっている重要な森林である。そして北海道有数の観光地・支笏湖をおそった森林被害は自然のみならず、人々の心にも大きなダメージを与えることになった。



一夜にして強風になぎ倒されてしまった広大な森林



根をむき出しにして折り重なるように倒れた木々



想像を絶する被害を目にして復興の森づくりを決意した

2005年7月、札幌定山溪の国有林を活用した「森林マラソン」の特別協賛で何度も北海道を訪れていたセブン-イレブンみどりの基金・元理事秋山英敏氏は、石狩森林管理署の案内で支笏湖周辺の国有林を訪れ、その被害の深刻さに驚き森の復興支援を決意した。この出会いが、『支笏湖復興の森づくり』の原点となった。

約1年の準備期間を経て、2006年5月に市民団体、企業、行政からなる「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会」が発足し、同時に、セブン-イレブンみどりの基金と北海道森林管理局・石狩森林管理署は、この年から3年間の「国有林における森林整備等の活動に関する協定」を締結した。

実行委員会では、支笏湖周辺の国有林100haのフィールドに、「森の育て親」登録をいただいた市民たちの手で10万本の苗木を植樹し、下刈り等の保育活動を行う、支笏湖復興の森づくりプロジェクトの概要を決定。その年の5月26日から広く市民に向けて参加募集を開始した。

「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」プロジェクトの概要

●プロジェクトの概要

主催 支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会
セブン-イレブンみどりの基金

フィールド 支笏湖周辺国有林：100ヘクタール

植樹本数 10万本

実施期間 2006年5月～2009年3月

参加者数 のべ約8千人

参加団体 千歳・札幌近郊NPO・ボランティア団体、千歳市内小中学校、道内大学・専門学校
千歳市民、道内・道外市民、地元企業、森林関連団体・企業、行政機関 他

参加募集 一般公募

告知媒体 北海道のセブン-イレブン店頭ポスター・チラシ、セブン-イレブンみどりの基金ホームページ、新聞報道、テレビ・ラジオ取材ニュース、行政機関広報紙・ホームページ
実施要領パンフレット(実行委員・事務局による訪問説明活動)

総事業費 約6千万円

●支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会

■委員長

中易 紘一 財団法人北海道林業会館 理事長

■委員

秋山 英敏 セブン-イレブンみどりの基金 理事

大瀧 健一 学校法人宮島学園 理事長

角館 盛雄 北の森21運動の会 会長

加藤 健二 王木林材株式会社 代表取締役社長

倉持 寿夫 NPO法人北海道市民環境ネットワーク 代表

佐々木金治郎 支笏湖自治振興会 会長

高橋 邦秀 北海道大学名誉教授

豊岡 司 千歳市産業振興部 次長

中井戸 啓 株式会社林業新聞社北海道支局 支局長

三島 喜久夫 環境省自然環境局 支笏湖自然保護官

水正 貞教 森林再生技術研究所 代表

山崎 通則 財団法人自然公園財団支笏湖支部 支部長

■監事

松本 和英 NPO法人森林遊びサポートセンター 常務理事

■アドバイザー

北海道森林管理局、石狩森林管理署

※実行委員メンバー及び所属は2006年5月26日設立時点の内容で表記

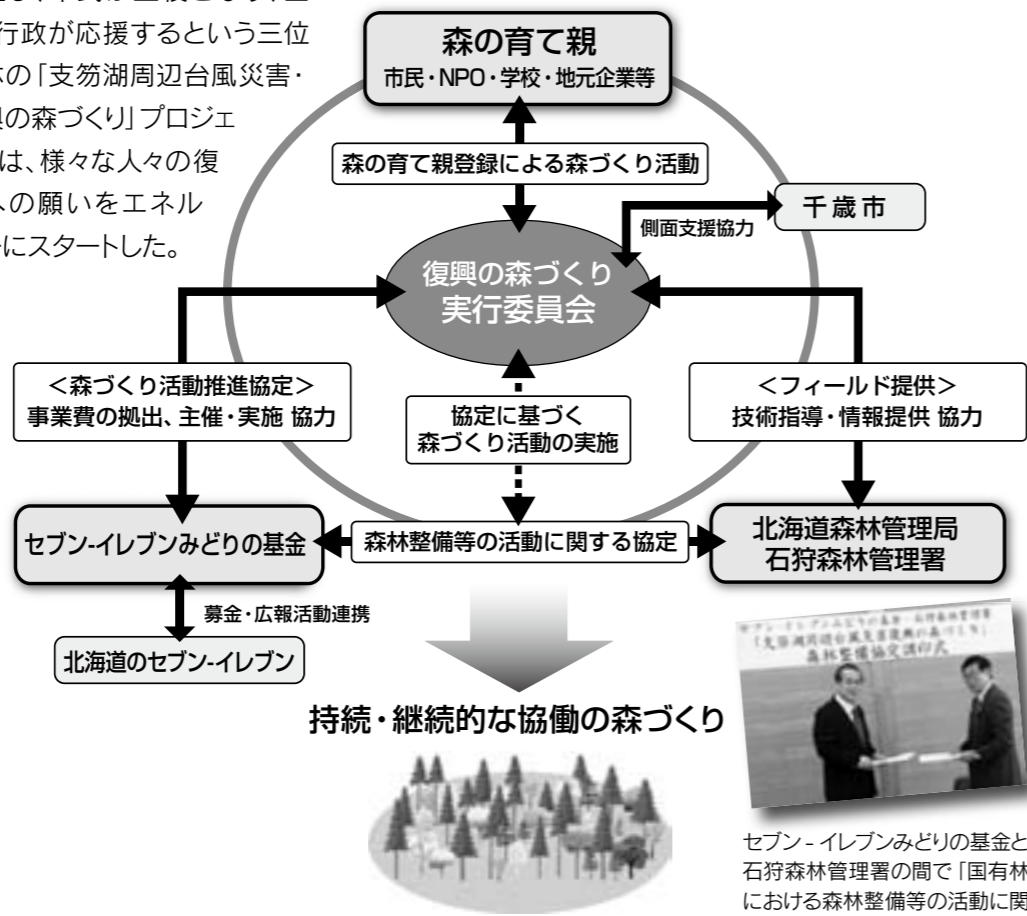
●支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会事務局

坪田 清美 森 哲子 水正 貞教
今井 宏 駒田 賢 大道 正長

市民・企業・行政の協働による復興の森づくり

●市民・企業・行政による三位一体の取組

実行委員会がプロジェクトを推進し、市民が主役となり、企業、行政が応援するという三位一体の「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」プロジェクトは、様々な人々の復興への願いをエネルギーにスタートした。



●森の育て親登録による森づくり活動

支笏湖復興の森づくりプロジェクトでは、植樹だけに留まらない継続的な森づくり活動を実施するために、区画単位で「森の育て親」団体の登録を行った。そして保育活動等で訪れた時に、自分たちの森の場所がわかるようサインポストを設置し、皆さんが自由につけた森の名称を手書きしてもらった。

登録区画の大きさは、1区画 [1ヘクタールあたり1000本の植樹] を基準とし、森の育て親団体のメンバー数や年齢構成などを考慮して区画の大きさを定め登録する方式とした。また個人や家族などの小人数での参加もできる区画も用意した。植樹及び保育期間は、参加しやすいようにメインデーから約1週間を設け、期間中に何度でも訪れることが可能な仕組みとした。

その結果2006年秋、2007年春の2年間にわたる植樹、およびその後の保育活動に合計141の団体・個人に「森の育て親」登録をいただき、3年間でのべ8000人の森の育て親に参加いただいた。

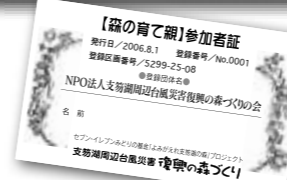
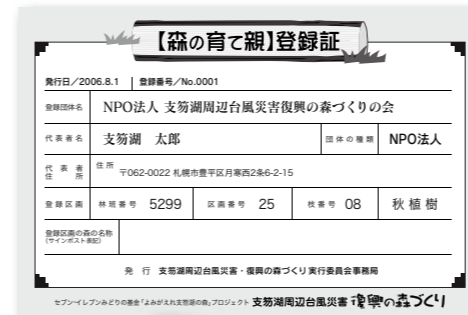


「森の育て親」登録

- 森の育て親を区画単位で登録し登録証を発行
- 区画毎に設置したサインポストに自分たちの森の名称を記入



●森の育て親登録証・参加者証と森の育て親ハンドブック



森の育て親登録団体に登録証を発行し、団体の登録メンバー全員に参加者証と森の育て親ハンドブックをお渡しした。ハンドブックは、植樹の行い方をはじめ森でのマナーや森の働きなど、子どもたちにも分かりやすく説明している。また、セブン-イレブンみどりの基金から、植樹に来た方全員に小型シャベルとネーム入り軍手をプレゼントした。



●森の育て親募集告知ツール



- 店頭ポスター
- 店頭募金箱
- 店頭チラシ
- レシートの募集告知

北海道のセブン-イレブン全店で、支笏湖復興の森づくり「森の育て親」の募集告知が行われた。また募集期間中に店頭募金も行われ、道民の皆さまからの募金は、セブン-イレブンみどりの基金・北海道理事 端照雄氏を通じて実行委員会に寄付していただいた。

●プロジェクト概要パンフレット



プロジェクトの概要パンフレットは、登録お申し込み、お問い合わせをいただいた団体、森林ボランティア団体、マスコミ等へ送付し、内容の周知を図った。また、千歳市内の学校や企業、団体等の訪問説明活動に使用し、皆さんのご理解をいただいた。

●マスメディアによる事業や募集内容の報道



北海道新聞、千歳民報、朝日新聞他の新聞紙上でプロジェクト内容や募集に関する記事が数多く掲載された。また、NHKラジオやSTV、HTB等のテレビ取材も行われ、市民・企業・行政による、全国的にも例を見ない大規模な協働の森づくり活動として広く紹介された。

支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり 実施フィールド

●2006年から2年間で100haのフィールドに10万本の苗木を植樹

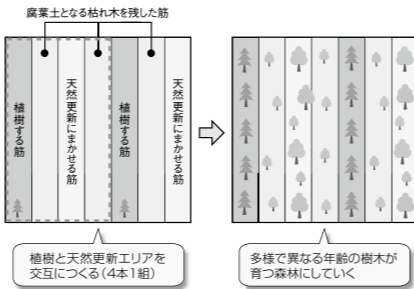


森の育て親へ苗木贈呈



2006年9月17日、森が歓迎しているかのような秋晴れの日。この植樹メインデーから森づくりが始まった。この日は、森の育て親・代表への苗木の贈呈式や被害を受けた森のガイドウォーク、ちびっこクラブなどのイベントも用意し、楽しい一日となった。

●植樹と天然の萌芽を組み合わせた植栽手法



図のように、植樹エリアの畝は4本1組になっている。1本目はできるだけ早く森林が再生するよう、郷土樹種のアカエゾマツ、トドマツを『植樹をする筋』。残り3本の内1本は『天然更新』が活発になるよう地ごしらえをした筋。残りの2本は、さらに自然の営みにまかせて、倒木が土に戻り、そこに、さまざまな樹種が入り込み成長していくのを待つ。こうして、多様な森林が復興するのを、長い時間をかけて見守っていく。



5280 林班

●マップは、「森の育て親」の皆さまの登録時名簿をもとに作成しました。



2006年
秋植樹
9月17日～26日



森の入口のサイン前で記念撮影

5300 林班



5299 林班



2006年9月、秋植樹の開会セレモニーは見事な秋晴れに恵まれ、約千人の森の育て親にご参加いただいた。



ちびっこクラブコーナー



台風被害状況ガイドウォーク

支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり 実施フィールド

2007年5月、春植樹の開会セレモニーでは、未来を担う子どもたちの「森の育て親」にアカエゾマツの苗木をしっかりと受け取っていただいた。

2007年
春植樹
5月20日～29日

●	林班
○	作業区
■	ブロック敷地
□	サウナスカウト
□	生活調査区
□	新木調査区



春植樹下見会



5308 林班



5311 林班



●フィールドに植樹した木



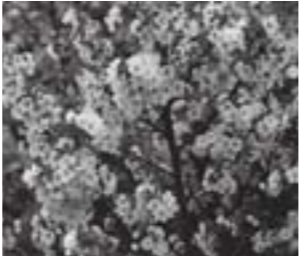
アカエゾマツ
北海道の木に指定されている常緑針葉樹。高さ約30～40m、太さ約1m以上になる。楽器や建築材として利用されている。



ミズナラ (ブナ科)
北海道の代表的な落葉広葉樹のひとつで、高さ約20～30mになり、果実はドングリの名で知られている。家具や国産ウイスキーの醸成樽として利用されている。



トドマツ (マツ科)
北海道を代表する造林樹種で、道内人工林の約半分の面積を占めている。高さ約20～30m、太さ60～80cmになる常緑針葉樹。建築材、パルプ材として利用されている。



チシマザクラ (バラ科)
高さ3～5m、太さ約10～20cmになる落葉広葉樹。日本列島で最後に咲くサクラとして有名で、根室市の開花予想の標本木になっている。

3年間にわたる「森の育て親」森づくりの軌跡

実施日	活動内容	参加団体数	参加者数
2006年			
3月24日	実行委員会 準備会		
5月26日	第1回 実行委員会		
5月26日	森の育て親・募集開始		
9月1日～4日	秋植樹下見会	42 団体	120 人
9月17日～26日	秋植樹 (50ha・5 万本)	72 団体	2,115 人
2007年			
5月1日～8日	春の根踏み・補植	46 団体	591 人
5月1日～8日	春植樹下見会	38 団体	125 人
5月20日～29日	春植樹 (50ha・5 万本)	61 団体	2,195 人
7月7日～14日	夏の下刈り (50ha)	45 団体	550 人
10月7日	森の育て親同窓会 [フォレストウォッチング]	39 団体	288 人
2008年			
3月20日	特別講座 [森とのおつきあいを考える]	35 団体	131 人
5月10日～25日	森の育て親同窓会 [春の観察会・補植]	47 団体	541 人
7月5日～31日	夏の下刈り (100ha)	72 団体	789 人
9月27日～10月14日	秋の観察会 [苗木伸長量調査・プロット観察]	54 団体	382 人
2009年			
3月21日	森の育て親感謝状贈呈会・苗木伸長量報告会		
	公開講座・講演会 [森の入口を見つけよう]		
	最終実行委員会・3年間のプロジェクト完了報告		



春の森の育て親同窓会では山菜天ぷらに舌鼓



春の根踏み

夏の下刈り

●支笏湖復興の森づくり「森の育て親」一覧

2006年 秋植樹		森の育て親団体名
1	5299-1	セブン-イレブンみどりの基金「よみがえれ支笏湖の森」参加者の森
2	5299-2	NPO法人 森林遊びサポートセンター
3	5299-3	野の花を考える植林会 中村力男、末村輝彦、田山正人、若槻昭雄、村上良平 ゆうなの森
4	5299-4	日本赤十字社血漿分画センター
12	5299-12	
5	5299-5	セブン-イレブン支笏湖森づくりの会
6	5299-6	
7	5299-7	まゆみの会 Take the sun! ひなたぼっこ
8	5299-8-1	ニワ建設(株)
		日邦建設(株)
	5299-8-2	支笏湖ファンクラブ チョコとクッキーの森
9	5299-9	(社)ガールスカウト日本連盟北海道支部
10	5299-10	NPO法人 藻岩山きのご観察会
	5299-11-1	支笏会
	5299-11-2	タツヤの森
13	5299-13	千歳中央ライオンズクラブ
14	5299-14	セブン&アイグループ労働組合連合会
15	5299-15	札幌市地域と教育を語る会
16	5299-16	黒豹千歳会
17	5299-17	北の里山の会
18	5299-18	(社)千歳地方隊友会千歳支部
19	5299-19-1	千歳市立泉沢小学校
	5299-19-2	千歳市校長会・教頭会
20	5299-20	ウッド・ネット苫小牧
21	5299-21	藻岩山愛好会 A
22	5299-22	藻岩山愛好会 B
23	5299-23	山菜キノコ愛好会
24	5299-24	環境省支笏湖自然保護官事務所
25	5299-25	千歳しゅくうぶ緑の少年団
26	5299-26	NPO法人 エクスプローラー北海道
	5299-27-1	(社)北海道まちづくり促進協会
	5299-27-2	北海道工業大学環境デザイン学科「まちづくりスタジオ」
28	5300-28-1	NPO法人 支笏湖まちづくり機構Neoステージ 支笏湖温泉旅館組合
	5300-28-2	支笏湖住民の森 支笏湖自然振興会
29	5300-29	第2 基地防空隊
30	5300-30	クリーンの会
31	5300-31	しこつ湖自然体験クラブ「トウレップ」
32	5300-32-1	北海道ハイテクノロジー専門学校バイオテクノロジー学科
	5300-32-2	NPO北海道自然エネルギー研究会
33	5300-33	AMA サポーターズ倶楽部
34	5300-34	
35	5300-35	ボーイスカウト北海道連盟
36	5280-36-1	NPO法人 新山川草木を育てる集い
	5280-36-2	千歳ライオンズクラブ
37	5280-37	千歳市立北栄小学校
38	5280-38	NPO法人 北海道森林ボランティア協会
39	5280-39	「よみがえれ支笏湖の森」参加者の森
	5280-40-1	北海道開発局千歳道路事務所
	5280-40-2	ポロトの森ネイチャーガイドめむの会
	5280-41-1	(株)日本航空
	5280-41-2	UIゼンセン同盟ヤングリース北海道
42	5280-42	NPO法人 国際チャリティ協会アムリタハート
43	5280-43	北の森 21 運動の会
44	5280-44-1	和光技研(株) エコチャレ隊
	5280-44-2	セ・プランチーム Q
45	5280-45	北海道マラソンクラブ
46	5280-46	千歳市立緑小学校
47	5280-47	NPO法人 ねおす (株)さくら技建
48	5280-48	紺谷俊之、佐藤靖治 サポート「るびなす」
49	5280-49	
50A	5280-50-A-1	NTT OB & 現職のグループ
	5280-50-A-2	平成16年度支笏湖青少年研修センター職員一同
50B	5280-50-B	めがへるす

2007年 春植樹		森の育て親団体名
1	5286-1	千歳市校長会・教頭会
2	5286-2	(社)ガールスカウト日本連盟北海道支部
3	5286-3	千歳市立泉沢小学校
4	5286-4	王木林材(株)
5	5286-5	ボーイスカウト北海道連盟
6	5286-6	
7	5286-7	藻岩山愛好会 B
8	5286-8	藻岩山愛好会 A
9	5286-9	恵み野ファミリー ウッドフレンド
10	5286-10	エニワ林工(株)
11	5286-11	(株)角田産業
12	5286-12	野の花を考える植林会
13	5290-13	(株)三浦興産
14	5290-14	(株)日本航空 (JAL マラソン)
15	5290-15	千歳セントラルロータリークラブ・長泉ロータリークラブ 友好の森
16	5290-16	札幌地方国林退職者協議会
17-1	5290-17-1	(株)JTB 北海道市場開発室
17-2	5290-17-2	NTT OB & 現職のグループ
18	5290-18	開校50周年記念植樹「青葉の森」 千歳市立青葉中学校三年生
19	5290-19	常松学園札幌工科専門学校
20	5290-20	末村輝彦
21	5308-21	カッコウの里を語る会
22	5308-22	ウッド・ネット苫小牧
23	5308-23	生島慶子、桑折忠男、信國正治、平末和廣、宮岸弘 中村力男
24	5308-24	支笏湖森クラブ
25	5308-25	木づかい森づくり 堀川林業フォレストアーツ
26-1	5308-26-1	千歳剣道スポーツ少年団
26-2	5308-26-2	北海道エコ・コミュニケーション専門学校
27	5308-27-1	新札幌恵愛会病院
	5308-27-2	バタゴニア
28	5308-28	札幌ウッディーズ
29	5308-29	開校50周年記念植樹「青葉の森」 千歳市立青葉中学校二年生
30	5308-30	
31	5311-31	千歳市役所ヒメマス・グループ
32	5311-32	千歳市役所ヤマセミ・グループ
33	5311-33	千歳建設業協会
34	5311-34	航空自衛隊特別航空輸送隊
35	5311-35	札幌キノコの会第四支部
36	5311-36	札幌キノコの会第六支部
37	5311-37	開校50周年記念植樹「青葉の森」 千歳市立青葉中学校一年生
38	5311-38	
39	5311-39	空港 OB 山菜愛好会 千歳の自然保護協会
40-1	5311-40-1	ひまりん 旭山公園キッズ、旭山森と人の会 市チャン
40-2	5311-40-2	柏山永遠の森 Y・A ピンガ
41	5311-41	北千歳駐屯地修親会
50	5311-50	
42	5311-42	
49	5311-49	セブン-イレブン支笏湖森づくりの会
43	5311-43	H16台風18号災害の復興に関わった人の会
44	5311-44	(有)名須川林業
	5311-45-1	あけぼの団地町内会ボランティア
45	5311-45-2	NPO法人 ナルク・千歳ベガサスの会 (社)日本山岳会北海道支部
46	5311-46	札幌キノコの会第二、第三支部
47	5311-47	札幌キノコの会第一支部
48	5311-48	丸駒温泉協力会 エーデルワイスの森
51	5311-51	隊友会農園クラブ

●一覧表は、「森の育て親」の皆さまの登録時名簿をもとに作成しました。



メッセージ ● 3年間の森づくり活動をふり返って

北海道森林管理局

局長 山田 壽夫氏

日頃から森林づくりにご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

昭和29年9月、北海道全域に壊滅的な森林被害をもたらした洞爺丸台風は、支笏湖周辺の国有林にも大きな爪痕を残し、その後、多くの方々の大変な努力によって緑の森林が蘇りました。その洞爺丸台風から50年目を迎えた平成16年9月、支笏湖周辺の国有林など北海道の森林は、台風18号によって再び甚大な被害を受けました。

この被害地域を緑豊かな森林とするため、「セブン-イレブンみどりの基金」並びに「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会」のご協力の下、「森の育て親」として多くの企業、学校、団体などの皆様に森づくりに参加していただいております。これまでの取り組みに対し、心から感謝申し上げます。

森林は、私たちの生活に必要な様々な働きと体験や学習の場を与えてくれます。今後も引き続き支笏湖周辺の森林の復興にご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



北海道森林管理局 石狩森林管理署

署長 瀬戸口 満氏

平成16年9月に北海道を襲った台風18号は記録的な暴風を伴い、当署管内の支笏湖周辺の国有林も甚大な風倒木被害を受けました。その被害地の復興に当たっての1つの取り組みとして、市民・企業・行政による「協働の森づくり」が企画され、支笏湖周辺の100haの大地に10万本の植樹を行い豊かな森林をよみがえらせることを目的に、セブン-イレブンみどりの基金と「国有林における森林整備等の活動に関する協定」が締結されました。これにより「森の育て親」として、のべ8千人にのぼる市民参加型での植樹、下草刈りが行われました。

現在では、この取り組みが契機になったとも言えるぐらいに様々な団体、企業、学校が単独で風倒被害地の復興に参画をいただくようになりました。関係者の皆様方ならびに「森の育て親」の皆様方に深く敬意を表しますとともに厚く感謝申し上げます。



NPO法人支笏湖復興の森づくりの会

代表理事 澁谷 重昭氏

NPO法人支笏湖復興の森づくりの会は、支笏湖復興の森づくり活動を今後も継続していくために、「森の育て親」の有志により平成20年12月に設立されました。

50年に一度という台風18号による風倒被害に、多くの人達が立ち上がった3年前の9月、晴天の中およそ2千人の皆様が支笏湖の森に集まり、植樹活動がなされました。私も泉沢小学校の児童や保護者の方々と一緒に植樹をしたことが、昨日のことのように思われます。苗木も少しずつ生長してきました。これまでご尽力いただいた関係の皆様、ご協力いただいた多くの道民の皆様に敬意を表したいと思います。

さて、今後のことですが、私達が植樹した苗木はまだまだ幼木であり、これからは下刈りなど苗木が一人立ちできるように保育していかなければなりません。これまでの基礎づくりをより充実させ、今後もセブン-イレブンみどりの基金の応援をいただきながら、豊かな森を再生していきたいと意を強くしています。

皆様には支笏湖の森が確実に甦るべく、活動を継続・補強するNPO法人へのご支援とご協力をよろしくお願い致します。



子どもたちからのメッセージ ● 森づくりに思うこと

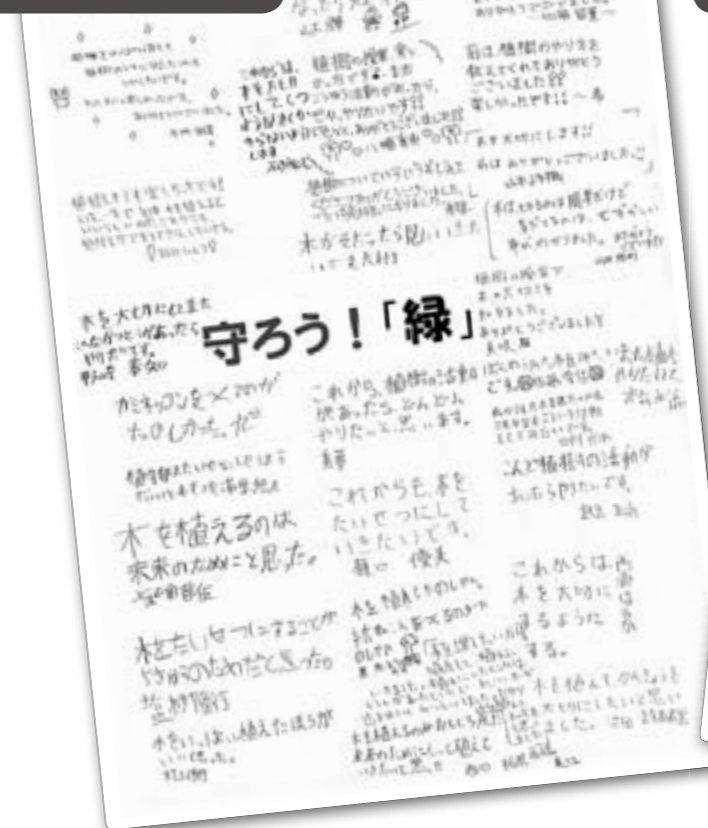
千歳市立泉沢小学校



千歳市立北栄小学校



千歳市立緑小学校



千歳市立支笏湖小学校

